

豊田市障がい者 総合支援センター



社会福祉法人 豊田市福祉事業団

豊田市障がい者総合支援センター 活動報告「結 vol.12」を作成いたしました。

総合支援センター各施設の取組をそれぞれ一つずつ紹介しています。多くの方にご覧いただき、少しでも皆様のお役に立つことができれば幸いです。

私たちは誰かとつながって生きています。

ひとりで悲しんでいるとき

誰かに話を聞いてもらえたら、少し楽になるかもしれない

うれしいことがあったとき

誰かに「よかったね」といってもらえたら、もっとうれしくなるかもしれない

ひとりではできないことも

誰かと力を合わせれば、できるかもしれない

利用者の方と地域の方々が結ばれることで、お互いがハッピーになればいいな
と考えながら、私たちは毎日の支援を行っています。

私たちの支援を地域の方々に少しでも知ってもらいたい。

その思いを「結（ゆい）」という言葉にのせて発行いたします。

(表紙の題字は、暖 加藤 留美さん)

豊田市障がい者 総合支援センター



豊田市障がい者総合支援センターは、障がいのある方の自立及び社会参加を支援し、豊かな地域生活の実現を図るため、豊田市が設置した施設です。「障がい者就労・生活支援センター」「けやきワークス」「第二ひまわり」「暖」「たよりん」の5部門で構成しています。

豊田市から指定管理を受け豊田市福祉事業団が、障がい者総合支援法に規定する障がい福祉サービス事業と、国・県及び豊田市から委託された就労生活支援事業などを行っています。

目次

けやきワークス	1
施設外就労について	
～株式会社豊田協同パッケージでの取り組み～	
暖	3
生産活動	
～社会の一員として～	
第二ひまわり	5
クラス活動（余暇活動）	
～第二ひまわりの余暇活動紹介～	
障がい者就労・生活支援センター	7
喜多ハウスの行事	
～地域での楽しい暮らし方～	



施設外就労について

～株式会社豊田協同パッケージでの取り組み～

はじめに

けやきワークスは就労継続支援B型の事業を行っている施設です。就労継続支援B型とは、障がいのある方が、軽作業などの仕事をしながら、社会参加する福祉サービスです。

けやきワークスでは施設内でパンの製造や販売、自動車部品組立等の軽作業を行うほか、施設外に出て仕事をする「施設外就労」も行っています。

施設外就労とは

「施設外就労」とは、企業と就労支援事業所が契約を交わし、利用者と支援員が企業へ出向いて作業を行い、作業受託費を受け取る就労形態です。今回は、平成20年度から働かせていただいている豊田市公設卸売市場の中にある、株式会社豊田協同パッケージ(以下市場と表記)での取り組みについて紹介したいと思います。

作業工程1 箱出しを行う

市場では主に玉ねぎ、人参、じゃがいもをスーパーなどに陳列できるよう、ネットや袋に詰める作業を行っています。

野菜を詰める前に、まずは箱に入った野菜を作業台へ出します。玉ねぎは1箱20kg、人参やじゃがいもは1箱10kgあるため、大変力を要する作業です。



作業工程2

野菜をネットや袋に詰める

箱出しが終わったら、野菜をネットや袋に詰める作業を行います。決められた数が入っているか、決められた範囲内の重量に納まっているかどうか、確認しながら作業を行います。道具も工夫しながら作業を行っています。玉ねぎのネット詰めであれば、大きい缶詰(ホールトマト缶の空き缶等を再利用)をくり抜いたものにネットをはめて詰めています。



作業工程3

クリップ止め、箱詰め、箱積み

袋詰めが終わると、クリップ止めを行い、スーパーなどで見かける製品が完成となります。クリップ止めされた製品は、決められた数を箱に詰めて、パレットの上に箱積みしていきます。野菜の種類によって積み方も違うため、崩れないよう積めているか、積み方に誤りがないか確認しながら作業を行います。



おわりに

市場での仕事を始めてから、20年近くが経ちました。市場での仕事は、責任感や緊張感を伴うことが多く、体力や根気のいる作業となります。市場で仕事をしている利用者は、それぞれ市場で行う作業に目標を持ってやりがいを感じながら仕事をしています。

今後も施設外就労で市場の仕事がしたいという利用者の思いを大切にしながら真摯に取り組んでいきたいと考えています。

また、スーパーなどで野菜を手にとった際、「この野菜けやきワークスが詰めたものかな?」と、少しでも思い出していただけたら幸いです。

生産活動 ～社会の一員として～

暖は、重度の知的障がいと重度の身体障がいのある方が利用する生活介護事業所(通所施設)です。暖の理念に、「どんな障がいがあっても 社会参加を目指し 社会の一員として生活する」とあります。社会参加の一つとして暖の『生産活動』をご紹介します。

生産活動って？

暖では、3種類の製品を作っています。羊毛フェルトを丸めたり、板状にしたりして小物を作る羊毛製品、牛乳パックから紙をすき、ハガキやポチ袋に加工する紙すき製品、小麦粉を練って型で抜いて焼き、クリップやオーナメントにするパン生地製品です。暖の中にある「だんのちいさなお店」には、製品がいつでも置いてあるので、ぜひ見に来てください。



羊毛のコースター、ヘアゴムといもむし君



紙すきのハガキ、ポチ袋



パン生地のクリップ、写真たて

どうやって作っているの？

はじめにどんな製品を作るのか利用者の方と相談します。季節にちなんだもの、利用者の方の好きなもの、納品先の要望を参考に、こんなものを作りたい！とデザインを考えます。

利用者の方の得意な動きを活かして各工程を担当します。その一部をご紹介します。



【羊毛製品】

手先が器用で繰り返しの作業を好む A さん。板にローラーをつけた道具を使って羊毛を板状にします。石鹼水を含んだ羊毛の上を何度も何度も道具を転がし固めます。根気のいる工程ですが、一つのことに集中して取り組むことができるAさんの得意な工程です。

【紙すき製品】

視覚、聴覚に障がいのある B さん。振動を感じるのが好きな刺激の一つです。ミキサーに触れるとスイッチに手足を伸ばし、ミキサーの振動を感じながら、牛乳パックを攪拌します。



【パン生地製品】

握る、つまむ、伸ばす、曲げるなど、手や腕を使うことが得意な C さん。左の写真は、ローラー式めん棒でパン生地を平たく伸ばしているところです。棒の端を握って、腕を伸ばしたり曲げたりして生地を広げます。「せ～の！」や「3. 2. 1」などの掛け声に合わせて腕を動かします。

作ったものはどうしているの？

できあがった製品は、暖内で販売するだけでなく、地域にあるお店の一角に置かせてもらっています。コロナ禍で搬入先が減ってしまいましたが、現在は、けやきワークスの入り口にある「雑貨の店ぜるこば」や御船町にある「ストロベリーパークみふね」、期間限定で大豊工業の売店で販売しています。また、令和5年度は、こども発達センターのイベントにも出店しました。お客様と顔の見えるやりとりが次の創作意欲につながっています。

令和5年度は、コロナ禍で休止していた大豊工業への搬入作業を再開しました。自分たちの作った製品を自分たちで運ぶことがやりがいにつながります。大豊工業の担当者との交流も楽しみの一つです。売れやすい陳列をみんなで検討しています。



ストロベリーパークみふねの売り場に行ってきました。ここには、いちごやメロンをモチーフにした商品を納品しています。明るい店内に、かわいい小物が他にもたくさん並んでいました。

みなさんもちご狩りやメロン狩りに行った際には、ぜひのぞいてみてください。

まとめ

売り上げは年度末に利用者の方に支払われます。そのお金で自分の好きなものを買う方、甥っ子や姪っ子にプレゼントをする方、お世話になった人にお礼をする方、使い道は人によって様々です。生産活動は社会参加の一つの形です。作ることを楽しむだけでなく、社会の一員として自分の役割を持つやりがいや、お金を得る喜び、自分で得たお金を使う楽しみを感じられるよう支援しています。近年の搬入先の減少や、お客様と顔の見えるやりとりができる販売場所の確保が今後の課題です。

クラス活動（余暇活動）

～第二ひまわりの余暇活動紹介～

第二ひまわりでは毎週金曜日の午後の時間にクラス活動を行っています。クラス活動とは、各クラス（第二ひまわりには5つのクラスがあります）の利用者さんと職員で余暇活動の計画を立てて行う活動のことです。

利用者さんが充実した時間を過ごせるように、活動を実施しています。今回は第二ひまわりのクラス活動でよく取り組まれている4つの活動を紹介します。

調理活動

利用者さんの得意な動作（切る、入れる、混ぜる）を活かして調理活動を行います。材料はスーパー等で購入したものを使用しますが、畑で野菜を作り、収穫した野菜を使って調理をするクラスもあります。調理活動ではいくつかの工程があるので、どの利用者さんもそれぞれの得意な工程で活動に参加しています。

材料を丁寧にカットします



材料をゆっくり入れます



力強く混ぜます



創作活動

絵画や造形物を作る活動です。利用者さんの個性や好きな表現技法に合わせて創作を行います。創作した作品は活動室や館内に掲示したり、豊田市が主催している障がい者作品展に出展したりします。

数年前には、第二ひまわりの利用者さんがクラス活動の時間に創作した絵画が、建設会社の看板のイラストに採用されました。

手作り石鹸を創作します



掌を使って着色します



墨汁を使って絵を描きます



外出活動

第二ひまわりを離れ、地域の公園や施設に出かけます。季節の植物を見に行ったり、体験型施設に行ったりと目的は様々です。車に乗って移動することあれば、歩いて目的地まで移動することもあります。

桜の名所へドライブ



交通公園の汽車に乗車



旧枝下駅のトロッコに乗車



音楽活動

活動室やホールにて音楽活動を行います。ピアノ、ギターなどの楽器演奏の音や、カラオケの機械、CDの音に合わせて歌を歌います。好きな曲をリクエストして積極的に歌う方もいれば、楽器（マラカス、タンバリン、ベル）を音楽に合わせて鳴らして楽しむ方もいます。楽しみ方は人それぞれで、中にはリズムに合わせて体を動かしてダンスする方もいます。

活動室でカラオケ



CDに合わせてダンス



ピアノに合わせて歌います



クラス活動を通して

毎週、様々なクラス活動を通じて、利用者さんの新たな一面や特技に気付くことがあります。それが新たな活動や支援につながり、利用者さんの第二ひまわりでの生活が豊かになります。そのため、今後も充実した余暇活動を計画し、実施していきたいと思っています。

そして、余暇活動での経験が利用者さん一人一人の生活の質の向上や喜びに繋がるように意識して、継続して取り組んでいきます。

喜多ハウスの行事

～地域での楽しい暮らし方～

グループホーム喜多ハウスでは、毎日の生活面の支援の他に、生活に彩りを加えるための行事をいくつかおこなっています。その中には、入居者が楽しめることはもちろんですが、その地域で暮らしている方との繋がりも大事にしています。

それぞれの行事が、喜多ハウスとどのような繋がりがあり、どのような効果を生んでいるのかを紹介していきたいと思います。

1 環境美化

喜多ハウスでは、入居者自身もグループホームの清掃をおこなっています。理由としては、自身の住まいは自身でキレイにすることを意識してもらうこと。そして、もし入居者が将来的に喜多ハウスを出て、アパート等で一人暮らしをすることになった際に困らないように、掃除をするという経験を身につけてほしいから、という思いがあります。清掃中に、地域の方から声をかけていただくこともあり、入居者の方たちの励みになっています。



環境美化の様子

2 コンサート

木管楽器奏者のリブレさんが、喜多ハウスのために毎年コンサートを開催してくれています。きっかけは、リブレさんのメンバーに喜多ハウス入居者に関わりのある方がいたことです。毎回、入居者の好きな曲をリサーチしていただき、その曲を演奏してくれます。余暇で外部の方と関わることが少ない入居者にとって、生演奏に触れることができる貴重な機会なので毎年とても楽しみにしています。



リブレさんコンサートの様子

3 クリスマス会

管理栄養士が考案したクリスマスメニューを調理したり、食べたりして入居者みんなで楽しむ会です。最後にはクリスマスケーキも食べて大満足！

包丁を使って野菜を切ったり、肉を油で揚げたりと、普段全く料理をしない入居者にとって、自分たちが作ったものを食べるという良い経験になっています。



クリスマス会の様子

4 喜多ハウス見学会

地域の方を対象にした見学会を、初めておこないました。参加者には喜多ハウスが建てられたときのことをご存知の方もいて、昔話で大いに盛り上がりました。

入居者も、とても嬉しそうに自分の部屋を案内しており、改めて、喜多ハウスが地域の方に支えられていることを実感しました。今後も続けていく予定です。



見学会の様子

5 まとめ

入居者の方は、皆さん日中どこかで働いたり、通所したりしているため、全員で予定を合わせて集まる機会は限られています。その中で、日々の暮らしを豊かにできるような活動を、少しでも提供できればと思っています。

喜多ハウスの入居者が豊かに暮らしていくためには、地域の方々との繋がりは欠かせることができません。いかに喜多ハウスの入居者が様々な人に支えられて生活しているかを、様々な場面で実感しています。

今後も、喜多ハウスが地域に根差したグループホームであり続けるように、職員一同支援していきたいと思っています。





活動報告 vol.12

「結」

2025年 3月発行

豊田市障がい者総合支援センター

<http://www.fukushijigyodan.toyota.aichi.jp/>